

平成17年度の学会賞の授与について

第24回日本自然災害学会学術講演会が、平成17年11月17～18日に、東北大学に於いて開催された。11月18日（金）に開かれた総会の中で、学会賞および国際賞の授賞式が行われた。日本自然災害学会の学会賞として、功績賞と学術賞が設けられている。

学術賞は木村拓郎氏（(株)社会安全研究所 代表取締役 所長）に授与された。功績賞に該当はなかった。国際賞は加藤碩一氏（産業技術総合研究所東北センター所長）に授与された。



学術賞

受賞者：木村 拓郎 氏（(株)社会安全研究所 代表取締役 所長）
研究題目：火山災害復興における住宅・集落再建に関する調査研究
— 島原・上木場地区をケースに—
掲載誌：「自然災害科学」Vol.23, No.2, 2004, pp.229-244

受賞理由

近年、災害後の復興が大きな関心事となっている。とりわけ地域の復興の骨幹をなす住宅や集落の再建に関する手法や制度が社会的な課題として取り上げられている。しかし、これらの分野については、まだ研究の歴史が浅いこともあって、あまり成果が上がっていないのが実情である。このような背景の中、本研究は復興に向けた住民の意識の変化や復興に対する住民の評価などを社会的な観点から調査・分析を試みた、これまでにない貴重な研究といえる。本研究成果は、今後も発生するであろう火山災害はもとより、他の自然災害の復興事業に大きく寄与することが期待できる。

以上、これまで研究の遅れている領域に対し、新しい見地から調査研究を試みた点を評価する。

受賞コメント

これまでの学術賞のなかで災害復興というテーマでの学術賞は初めてで、しかも火山災害での受賞ということで喜びも格別です。

近年、災害後の復興が大きな関心事となっています。とりわけ地域の復興の根幹をなす住宅や集落再建が大きな課題となっています。その理由としては、住宅や産業を含め集落再建に関する手法や制度が未成熟であることが挙げられます。一方で地域の復興推進には、住民の意向が不可欠であることは言うまでもありません。しかし、これまで研究には、復興過程のなかで被災住民の意識の推移を分析したものはほとんどなかったといえます。今後、住民参加型の復興を定着させるためには、より多くの事例研究が必要だと考えています。



国際賞

受賞者：加藤 碩一 氏（(独)産業技術総合研究所東北センター所長）
研究題目：Eastern Asia Geological Hazards Map: Paper and Digital Versions
掲載誌：「Journal of Natural Disaster Science」Vol.25, No.2, 2003, pp.65-74

受賞理由

本研究は1990年代の「国際防災十年」の国

際デモンストレーション計画の一つとして認知され、東南アジア地球科学計画調整委員会

CCOPだけでなく世界地質図委員会 CGMW や UNESCO の協力を得ながら行った国際共同研究である。著者らが常にそのリード役であった。昨年のスマトラ島沖地震で有名になったアチェ地域の地震も収録され、津波被害想定地域になっている。

本研究は、今まで散逸していた途上国の災害データを収集し利用しやすい形で提供したことにより意義があるが、それだけにとどまらず、10 数年前から各国の地質調査所 GS を組織し、専門家を育て、データ収集体制を構築するなど地道な活動を展開してきたことも、より大きな国際貢献と言える。

受賞コメント

このたび日本自然災害学会より上記国際賞を授与されましたことを深く感謝致します。近年アジアを始め中近東地域において地震災害他の地質災害が多発し、多くの人的・経済的損失が生じていることはご承知の通りです。災害軽減に向け関係者の様々な取り組みが行われていますが、専門家のみならず現地住民や地方自治体防災関係者などに災害について一層の啓蒙が必要とされます。本受賞の対象となりましたのは、直接的には掲載論文ですが、その背景にある自然災害図編纂計画の進捗とその成果物に対して総合的に評価されたものと理解しております。これは、1992 年の万国地質会議での通産大臣（当時）挨拶において「自然災害の諸現象に関するデータベースの構築と解明を行い、世界的な自然災害マップを作成すること」が提案されたことに由来します。通産省工業技術院地質調査所（現産業技術総合研究所地質調査総合センター）が中核研究機関となり、筆者がそのリーダーとなって進めてきたものです。本計画は「国際防災 10 年」の国際デモンストレーション計画の 1 つとして認知され、関係する国際組織である東・東南アジア地球科学計画調整委員会 (CCOP)、世界地質図委員会 (CGMW) 及び UNESCO の協力の下に、東アジア関係各国と毎年ワークショップ等を開催し進捗を図ってまいりました。そうした意味で、この受賞は、私たち受賞者だけでなく直接間接に協力いただいた関係者全員に与えられたものと認識し、あらた

めてお礼申し上げる次第です。この成果をより知って普及していただくために以下にその一部をリストアップしておきます。ありがとうございました。

[成果紹介]

(1) Hirokazu Kato and Eastern Asia Natural Hazards Mapping Project (2002) Eastern Asia Geological Hazards Map (1:7,700,000), Geological Survey of Japan, AIST.

本出版物は、2 葉の災害図（地震・津波・火山などの内因性災害図と、地すべり・海岸侵食などの外因性災害図を表した図に分けて、おのおの地質・地形基図上に表示）、1 葉の凡例を含む説明図及び英文説明書からなる。

(2) Geological Survey of Japan, AIST (2003) Interactive Geological Hazard Map of East and Southeast Asia with GeoHazardView (version 1), Digital Geoscience Map G-11, Geological Survey of Japan, AIST.

上記災害図編纂に際して収集された個別災害情報及び関連情報は、数値化されて CD-Rom に収められ出版された。また、画面上で災害種別、発生時期、災害規模等の様々な条件を指定することによってユーザーの要望する災害が展示可能で、さらに個別災害イベントを特定することによって画面上のその詳細情報を閲覧することもできる。

(3) (独) 産業技術総合研究所地質調査総合センター (2004) 東・東南アジア地質災害デジタルマップ. ((2) の一部改訂日本語版 CD-Rom)